

月報

1986 1. 月 號

シンガポール日本商工會議所

(1986年1月号)

1986年新年随想

新年随想	(丸 紅)	榊原 輝典	1
新年随想	(三井銀行シンガポール支店)	長野 敏章	2
随想「基」	(住友商事)	田本 耕三	3
新年随想	(全日空ホテルズ・シンガポール)	上野 晋	4
新年随想	(東京銀行)	中川 和次	5
新年随想	(伊藤忠商事)	海老塚 享	6
「顔」	(日立金属シンガポール)	荻島 孝夫	7
新年随想	(ハイモールド・プライベート・リミテド)	佐久山 秀夫	8
星島雑感・日本的経営	(シンガポール松下無線機器)	小出 富夫	9
真夏の正月と常夏の正月	(三菱銀行)	角田 浩男	11
ゴルフ駄目な人	(三菱シンガポール重工業)	泉 武	12
新年雑感	(三井物産)	武藤 茂祺	13
新年随想	(大阪商船三井船舶 (シンガポール))	加々尾 一弘	14
初夢「1991年」	(NECシンガポール)	吹野 勝重	16
カラオケ解禁	(新日本製鉄)	野明 宏次	18
新年雑感	(日商岩井)	岡崎 徹朗	19
新年随想	(日本郵船(シンガポール))	那波 光俊	20
新年随想	(大林組)	中嶋 俊明	21
「旅」	(岡本(シンガポール))	三森 和正	22

小売店あれこれ	((株) シンガポール大丸)	秦 悌之	23
雑 感	(新加坡鋳廠有限公司)	小林 紀夫	25
調 和	(株式会社住友銀行)	赤松 孝彦	26
新年随想	(聯合電子工程 (私人) 有限公司)	勝山 隆善	27
新年所感	(横河電機シンガポール (株))	渡辺 昭雄	28
1986年新年随想	(ペトロケミカル・コーポレー ションオブ・シンガポール)	香西 昭夫	29
独身雑感	(シンガポール・野村・マーチャ ント・バンキング・リミテッド)	沼野 健司	30
新年随想	(ジェトロ・シンガポール・ センター)	井手 俊弘	31
一年半たって	(在シンガポール日本国大使館)	細谷 孝利	32
生産性向上プロジェクトその経過	(PDP長期派遣専門家)	佐藤 和親	34
シンガポール菓子事情	(明治製菓 (シンガポール))	鈴木 昭一	39
会員紹介	(SMKエレクトロニクス ホンコン シンガポール支店, オリム・マニファクチャリングPTE LTD)		44
理事会の動き			46
広 報 欄			50
資料案内			51
編集後記			53

新年随想

1986年

シンガポール日本商工会議所

“新年随想”

会 頭
丸紅（株）
支店長 榊原 輝典

新春を御慶び申し上げます。

独立20周年を昨年迎えたシンガポールが、未曾有の経済不況に直面し、過去に政治的理由が主因となり、マイナス成長を経験したのと異なり、今回は純粋な経済的理由により、失速した事は、これ迄一本調子で急成長して来た当国にとり、厳しい試練でしょうが、シンガポール人の英知と耐乏精神により、一日も早く景気回復し、引続きASEAN諸国の中核として、又アジア新時代のリーダーの一員として、躍進を期待するものであります。

この厳しい環境下に、昨年15周年

を迎えた当所の新会頭として、これ迄の大先輩諸氏の培れた業績を、一層価値あるものに磨き上げ且つ、地元社会・経済に益々貢献出来る様、只管念願しております。

一日の計は、その朝に、一年の計は元旦にありと、申しますが、毎日は到底無理としても毎年初めに、今年こそはと、計画を樹てながらも、雄図空しく、その実現には程遠く、反省の繰返しを続けて参りました。

扨て、今年は何を目標とし、どの様に達成しようかと、果し得ぬであろう計画を楽しみに練っております。その一つに、当地での僅か3年近い駐在の間、それ迄70Kgあった体重が、60Kgと10Kgも消耗し、特に不健康な理由もなく、むしろ理想的な体格と喜んでおりますが、兎に角、接待料理で肥満を来す機会が多いだけに、何とか、この体型を保持する

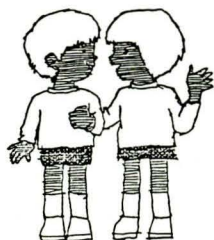
為、昨年秋より毎朝最低 500m を、
一息に泳いでおります。

この熱帯地に於ける健康管理という
意味で、自分の意志のみで実行出来
る目標の一つであり、自分でも驚く
程永続きしております。

ゴルフと違い、出勤前の 30 分を一
寸利用するだけで良く、“実年”と
新たに呼ばれる様になった、50才
台、60才台の皆様には是非御推め致
します。

シンガポール政府要人の、対米、対
中国訪問が相次いでなされた昨年の、
当国の経済外交が、本年に如何に結
実するか、大きな関心事であり、当
国に根づいた私共として、決して傍
観する訳には参りません。

本年が、シンガポールにとっても、
日本商工会議所にとっても、良き年
であります事を、祈念すると共に、
会員各位の御健勝を心から祝福致し
度く存じます。



新年随想

副会頭

株三井銀行シンガポール支店

支店長 長野 敏章

早いもので 当地着任以来、3 度
目の暑いお正月を迎えた。祖国、日
本と違い、四季が無く、季節感の無
い当地では、新年という、この区切
りが、如何に大切かと感じる次第で
ある。思うに、長い人生において、
新年というこの節目が大事であり、
人は、この様な、節目があってこそ、
活動の意義を高めることができ、月
並みではあるが「今年こそは」の意
気込みも生まれてくるのでは、ない
だろうか。

海外勤務も当地で 3 個所目である
が、海外勤務の大きな特典は、多く
の人を知る機会が与えられているこ
と、今様に言えば、“友達の輪”を
世界に拡げるチャンスが多いという
点である。例えば、日本ではとても
お目にかかることの出来ない方達に
も、偶々来星の折に御拝眉の榮に浴
するといった経験は皆様お持ちのこ
とと思う。人との出会いについては
一期一会の教えを大切にしたいと考

え、ずい分前から手帳に、何月何日には、こういう切掛でA氏にお会いした、何月何日には、在ニューヨーク時代の友人MR. B一家が、シンガポールに立寄った等、書き記すことにしている。節目が変わったところで新しい手帳が加わることになるが、今年はまた、どんな方とお会い出来るか、親しくなれるか、楽しみである。

ところで、今春、長い尾を引いたハレー彗星が、地球へ接近してくるそうである。76年に1回、太陽のもとへ戻って来て、又、宇宙の彼方へ回帰していくそうであるが、76年の周期が、人の命の長さに類似していて、どうしても人生と結びつけたい。この地球への来訪者を、ぜひ一度、赤道直下の当地の方が、日本より良く見えるそうであり、この目で、しかと見てみたいものである。

76年に一度しか知己を得られないハレー氏とお目にかかれるこの年が、良い年である様祈りたい。



随 想 碁

副会頭
住友商事株式会社
支店長 田本 耕三

私は碁が好きである。

最近は自分で打つより、棋譜を並べる方が面白くなった。

現代のプロや、江戸時代からの名人上手と言われた人達の碁を、記録にそって自分で並べ直して見る。

我々アマの打つ碁は、技術的に稚拙だから何かゴチャゴチャ打っている内に、勝ったり負けたりでそれはそれで結構楽しいのだが、棋譜に残されるような碁は、技術的に非常に高度で隙がなく、結局対局者の囲碁感と言うか考え方が大事になって来る。

勝負事だから、要は勝てばいいようなものだが、どうもそれ丈では味気がない。

名のある棋士は夫々に棋風があって、純技術的な完成に重点を置いたり、石の形の美感を求めたり、相手の呼吸に間髪を入れず対応する気合を重視したり、常に間合を置いた、バランスを大事にする、などなどい

ろいろの考え方や好みがある。

どれが良いとか悪いとか言うのではなく、そう言った自分の信念なり主張が、大事な一局の岐路で生かされているかどうかが大事だと思う。

プロは勝ち負けが生活につながるから、いわば命がけである。それ丈に要は勝てば良いと言う打ち方の棋士もあるが、たとえ負けても自分の囲碁感を大事にしようとする棋士もある。

最近解説書が発達して、大事な局面での着手について技術的な説明や選択を教えてくれるので、我々アマでも或る程度高い水準で同じ局面を考えることが出来る。

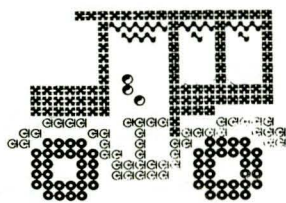
彼が何故そう打ったのか。

自分ならどう選択するか。

そして名人戦や本因坊戦など、一生に一度の大事な一局で、勝ち負けを乗り超えて自分の碁を打つ、そんな自分を空想したりする。

碁にはロマンがある。

だから好きなのである。



新年随想

理事

全日空ホテルズ・シンガポール(株)

副社長 上野 晋

新年おめでとうございます。皆様方にとって本年も佳い年でありますようお祈り申し上げます。

小生シンガポールに着任して早や1年4ヶ月経ちました。以前は航空会社員、今は出向の身でホテルマンとしての仕事ですが、ホテル、航空会社は観光産業と密接に結びついており、その動向には強い関心を持たざるを得ません。

シンガポールで観光客が消費した推定金額は、1984年で23億3,350万シンガポールドル(約2,350億円)となっています。一方、乗り入れている航空会社は現在42社、1週間に約580便が到着、その提供座席数は15万3,000席に及んでいます。

年間の外国人旅客は1984年で299万1,430人、日本への外国人旅客は1984年度で211万人(対前年比プラス7.2%)であることを考えますと、人口がわずか250万人

の国としては観光立国として立派にやっていると考えられます。

ホテル産業にたずさわる者として気になりかつ現実に過剰気味になっているホテル客室数の状況ですが、1984年末に51のホテルで16,546室の提供であったのが、1985年末で60ホテル、約2万室近くなり、来年末には70ホテルで約2万6千室になるということです。

観光立国を標榜するシンガポールにとって観光客増は、ホテルの客室が埋まることであり、そのため政府観光局の海外での観光客誘致キャンペーン、それに航空局のOPEN SKY POLICYをかかげての航空会社の自由な乗り入れ促進は、必ずや実を結ぶものと思われます。

来星観光客が増えれば、流通部門もうるおうわけでありますし、シンガポールの経済の活性化にもつながると考えられます。

幸い日本でも航空の自由化が言われており国際定期便航空会社も複数になる気運にあります。国際航空政策の競争政策が世界的に米国、東南アジア、英国の三極構造になっている事実を踏まえ、日本がその対応にふみ出したことは、アジアのゲート

ウェイとしての東京の地位の低下を防ぐことになるであろうし、もう一つのゲートウェイ、シンガポールにも良い結果をもたらすものと確信致します。

こういう状況にあって、シンガポール政府、政府観光局、シンガポール航空の積極的な行動には、敬意を表さざるを得ません。「アジアのアムステルダム」、にというシンガポールの意気込みは、必ずや成功するであろうし、星日間の往来がより多くなる年になるよう祈ってやみません。

新年随想

理 事

株式会社東京銀行

支店長 中川 和次

シンガポール経済にとって、昨年は有史以来初めて経験する出来事が多発した年でした。奇蹟的發展を遂げて来た当国も急成長に伴う色々な弱点が内在していることを暗示しています。日本から訪星される方からシンガポールの将来について意見

を聞かれますが、卒直に云ってオブティミスティックな意見を開陳し難くなっているのが現状です。

例えば、東京オフショア・マーケットが出来たらシンガポールはどのようなでしようかと聞かれます。最近発表されたある会計事務所のレポートによれば、当地進出の邦銀は総資産ベースで全銀行の33%、又、当地オフショア・マーケットの大宗を占める銀行間資金取引残高では全体の45%と云う高いマーケット・シェアを占めています。この事実は邦銀のビヘイビア如何によって当地オフショア・マーケットの姿が変わり得ると云うことです。又、このことは我々の親元も自からの意志決定の重大さを充分認識してもらわなければならないと同時に、我々現地で働くものにとって親元を充分説得し得るに足る環境作りをシンガポール政府に期待したいと云うことです。

以上のことは当地進出の日系製造業にも云うことが出来るようです。当商工会議所が最近実施した製造業を対象とするアンケート調査によれば、各社製品の主たる競争国はNICSではなく日本であると答えた企業が最も多数を占めました。又、製造業

のトップの方々は新たに設備投資をして生産拠点を作るとしたら日本がベストとも云われます。貿易摩擦解消のため海外生産が時代の潮流とならんとしている時、国内市場を持たないシンガポールに新規投資あるいは追加投資を本社をして実行せしめるに足る説得材料が欲しいと云うのが当地製造業のトップの方々の偽わらざる心況だと思えます。

シンガポールが新ためて確認した弱点を克服しアジアの模範生として立直ることを期待してやみません。

新年随想

理 事

伊藤忠商事(株)

支店長 海老塚 享

あけましておめでとうございます。

日本の様に四季のある国でもいつの頃からか、季節感が徐々になくなって来ている様に思う。

子供の頃、元日ともなれば自然と早朝に目が覚め、身を切られる様な寒さの中を、オーバーに身を包んで父親に連れられて初詣でに行ったこ

とを、まだ鮮明に覚えている。

寒さが身をひきしめ、初詣でを厳肅なものにし、この儀式がすまぬと一年間待ったお年玉が貰えぬと、子供心に思ったものだ。

お年玉をやる立場になる頃には、もうそんな寒さはなかった。と同時に、お正月の持つ清冽な雰囲気も、晴着を気にしながら興じた風上げやこま廻しも、少くとも都会からは殆んど消え失せてしまった。

人間は文明の発達の過程で確実に自然を克服しつつあり、その結果として、季節感が薄らいで来ている様である。

科学技術の進歩は、本来人間に幸福をもたらす筈である。

事実、戦後四十年間我々は数多く生み出された文明の利器によって、暑さ寒さから可成り解放されたばかりでなく、家庭内の仕事も楽になり、又種々の楽しみも得られる様になった。

その反面、人間は従来持っていたヒューマンな心を少しずつ失って行っている様に思える。

豊かさの中で「物」より「心」の面に最近関心が高まり始めたことは結構な事であるが、科学技術の発達

はそのペースを落とすとは考え難い。せめて心の豊かさの方も出来る丈ピッチを上げて、科学技術の発達に追いついて行って欲しいものだ。

さもないと今盛んに研究されている「AI」の方に、より人間的な情感など持たれてしまう様になり兼ねない。

「顔」

理 事

日立金属シンガポール(株)

社長 荻島 孝夫

当地に赴任し、PANDAN VALLEY CODOMINIUMの一角に住んで1年3ヶ月になるが、日本人と中国人の顔の識別の難しさから、エレベーターの中で時折、日本人に英語で挨拶され、当方も平気で英語で挨拶を返えし、後でその人が日本語で奥さんや子供さん達と話をしているのを見て、「あ、日本人だったか、しまった。」と云うことを繰り返えしている。おそらく同じ経験をお持ちの方が多いかと思う。

正直云うと、当地に来て住む迄は中

国人と日本人の顔は何か大きな違いがあり、簡単に識別出来る様に思っていた。チョボ髭で細目の男、やや面長で下り目の女と云った中国人の顔に対する先入感があった様だ。服装の違いや顔色で中国人と日本人を区別し易くしている場合はあるが、洋装をしてしまえば、もともと同種アジア人種で区別がつけられないのが当然であろう。色白で品が良く眉目秀麗で知的な顔が日本人だと云った程の馬鹿げたウソボレはないにしても、潜在意識として、それに近い優越感が全く無いと云えば嘘になりそうな気もする。ペナンのRASASAYANGホテルで散髪して貰った時に、中国語で話かけられ、即座に英語で俺は日本人だと答え、腹の中で「失礼な」と一瞬思ったことがある。すかさず何故俺を中国人と思ったのか？日本人と中国人の顔はどう違うのかと質したら、日本人男性は目が細く眉がつり上り厳しい顔だが、中国人男性は目が丸く大きく思慮深く、円満で優しい顔だと云う。これでは、怒ったら笑われるだけだ。ピカソやマチスのキュビズム画で描かれる顔は全く素人には何が何だか解りにくい、簡単に識別出来たり、解ったりする

のが逆に間違いなのかも知れない。シンガポールも経済成長がマイナスになり、大きな曲り角に来て、その将来性に種々な見方や意見が出ているが？果してどんな顔に変化するのだろうか？化粧の仕方が気になる。

新年随想

理 事

HYMOLD PTE LTD

取締役社長 佐久山 秀夫

第二工業部会を担当させて載きまして、半年になりますが、あまりお役に立つ様なことが出来なくて、申し訳けなく思っております。あと後半の半年間努力するつもりでおりますので、宜敷くお願い致します。

扱て、今原稿用紙を前にして、こんな筈ではなかったが、と呆然としております。

私は戦争中、中学低学年を送りましたが、私の学んだ中学校の剣道の先生が、生徒に対して、後悔と云う言葉があるが、人生を送って行くに際して、後悔と云う言葉を先に立たせて、自分は後から歩いて行けば、転

ぶこともないし、こんな筈ではなかったが、と云う様なことにはならない、即ち男子たる者、熟慮して一旦志を立てたら、後を振り向く事なく目的に向かって努力すべし、と云う様な意味の事を常日頃話しておられました。私も、後悔を先に立たせて歩め、と云う発想がユニークで、時に当って思い出し、思い出して人生を送って参りましたが、馬齢を重ねるにつれて、殊に皮肉にも不惑の頃から、こんな筈ではなかったが、と感ずることが多くなりました。此れも老化現象のなせる事かと、さびしくなりますが、特に直ちに数字に表われる経営上の問題とか、ゴルフでは、こんな筈ではなかったが、と感ずる今日此の頃です。

「冬来たりなば春遠からじ」私の前任者も書いておりますが、当地では四季がないので「雨過天晴」と云うそうですが、即ち雨が過ぎれば空は晴れるの意で、如何にも当地の中国人的感觉を感じさせます。しかし不況をじっと耐えて好況を待つと云う感覚は、日本人では矢張り「冬来たりなば云々」だと思います。いずれにせよ1986年は陽春の景気で、私にとって、会社もゴルフも反対の

意味で良すぎて、こんな筈ではなかったが、と大笑い出来る1年になって欲しいものと祈っている次第です。

星島雜感・日本的経営

理 事

シンガポール松下無線機器

社長 小出 富夫

時間の経つのは早いもので、私も当地へ来てから5年目に入った。5年以上ここに居られる方は2割にも満たないのではないか。学校の先生方の任期は3年と決まっているし、銀行、商社の方々は3年という長い方であろう。例にあげて恐縮であるが、東京銀行の清水支店長の所へ着任の挨拶に行ってから、岸、生松中川各支店長をお迎えした。また親しくおつきあいさせていただいた多勢の方々をお送りし、新しく赴任されたの方々をお迎えしている。何だか街角に佇んで、人の流れを見ているような感じになる。

よく我々は、シンガポールの高い退職率の事を話題にする。それも日本と比較して、悪い方にとることが

多い。仕事を教えこんで、そろそろ一人前になったかと思ったらやめてしまった。将来幹部にと考えていたら、或る日突然やめると云ってきた。云々。私も来たすぐよくそういったものである。しかし、考えてみるとこれはこの国ではあたりまえのことであるし、そういう我々自身短い期間にローテーションという名のもとに、実質的な退職をしている。同じ会社に所属しているとはいえ、シンガポリアンから見れば、会社から居なくなるのだし、別の新しい人がくるのだから、まさに退職である。

高退職率はほんとうに都合の悪いことなのだろうか。仕事が行かない理由として高退職率をあげているのではないだろうか、むしろこの事実を利用して、経営の効率化をはかる方が得策ではないか。当社の例では、不景気で仕事が少い時の高退職率は人減らしの手間が省けて、願ってもないことであるし、年々2桁の賃上げの続く当国でのワーカーの入れ替わりは、人件費の増加に大きくブレーキをかける役目を果たす。どうしてもやめてもらいたくない人には、給料をはずむことは勿論であるが、人間関係を大切にしたら以外

と長続きするものである。

最近、日本の労働事情もだんだんと当地のそれに似てきていると聞く。若い人は、会社への忠誠よりも家庭を大切にする。単身赴任の急増は、それを如実に物語っている。シンチョンの方々如何。また、簡単に会社をやめるとはいっても、日本でも中小企業は以前からそうだった。ある日、仕事で関係のあった会社の社長がしょんぼりしているので理由を聞いてみたら、頼りにしていた¹以下数名が一度にやめて別の会社を作ったという。その後その社長は、立派に経営を続けている。

日本的経営の柱といわれている、終身雇用、年功序列賃金、忠誠心、集団指向などが崩れ始めている。高度成長期では有効に働いた日本的経営手法も、安定成長の環境下では変革されざるを得ない。それができない企業は消え去るのみである。

話を元へ戻して、我々がいつもぐちっている事実、即ち、高退職率、無秩序な賃金体系、薄弱な忠誠心、個人指向などをうまくコントロールして経営に生かす経験を身につければ、これから日本が迎えようとしている時代にうまく生かすことができ

るのではないか。天から与えられた絶好のチャンスだと思って、これらにチャレンジしてみるのも、考えようによっては愉快的なことではないか。ぐちっけていても人生、笑っけていても人生である。同じ人生なら愉快的方がましに決まっている。

真夏の正月と常夏の正月

理 事

三菱商事株式会社

支店長 角田 浩男

新年明けましてお目出とうございます。皆様よき新年をお迎えのことと存じます。

昨年7月、当地に赴任してまいりまして丁度半年、常夏の国で初めての正月を迎えました。暑い夏の正月は、今回で6度目の経験です。1978から1982年迄の5度の正月は、オーストラリア・シドニーで迎えたものですが、同じ暑い夏の正月でも、真夏の正月と常夏の正月とでは、迎えた感じが違います。シドニーでは、35度Cを超す日があっても真夏の正月のあとには必ず涼しくなる秋が来、

短かいとは云え肌寒い冬がやって来ます。当地では暑い正月のあとに、又暑いチャイニーズ正月が来、そのあと来年の正月迄、ずーっと暑い日々が続くのですから、同じ正月を迎えても感じが違ってくるのは当然かもしれません。大汗かきの私にとって当地シンガポールでは、秋・冬そして春を迎える楽しみがなく、本当につらい思いです。

汗をかきかき、当地では季節感もなくなると、ぼやく私に友人は「半年もすれば毛穴が開いて汗も出なくなりますよ」となぐさめてくれ、又「当地にも微妙な季節の変化があり、気をつけていれば、花の咲く時期、果物の盛りの時期もそれぞれ違うのがわかりますよ」と教えられたものの、未だに一向に汗の出が止まらず汗を拭き拭きゴルフのラウンドを終えるのに努めている状況です。

季節に微妙な差があるのでしょうか、まだそこまで気がつきません。この6ヶ月間、常に落葉が舞い落ち、又同時に新芽を出している青々とした木々を見て来ましたが、落葉のあと新芽を出すまで冬眠（休養）することのない当地の木々が、かわいそうに思われます。当地の人々は早く

老けると云われますが、年中暑く身体が休まる時がないからかもしれません。汗がよく出て新陳代謝がよく出来、健康的でいいですねと云われますが、考え方によっては早く年をとっているのではないかと思い、ぞっとするこの頃です。今年中には何とか汗のコントロールが出来る様になりたいものです。

ゴルフ 駄目な人 (下手の横好きの弁)

理 事

三菱シンガポール重工業株式会社
取締役社長 泉 武

- ◇ SIOCCのメンバーになって、そろそろ2年半に近くなる。
ゴルフはすこぶる楽しい。
広いコースを球を追って、右へ左へと汗を流すことは爽快である。
全身を力一杯屈伸し、振り廻す開放感は格別である。
- ◇ 私の平均グロスは、130である。2ラウンドですか？と冷やかし気味に尋ねる人、ワン・ラウンド・ハーフですか？と真面目にき

いて下さる人、反応は色々だがワンラウンドである。

快心のドライバーショットがでて、も、チョロを連続しても、結果はいつも大体同じと云う不思議なスコアである。

10年1日の如く、昔から概ね変わらない。

- ◇ 諸先輩が見兼ねて色々アドバイスして下さい。

「スイングが早すぎる。〇〇〇〇〇〇〇〇（敢て伏字とします）と口の中で唱えてやりなさい。」と忠告して下さい方があった。その通りにテイク・バックした。

その瞬間、近くの林の中から機関銃の掃射音が、鋭く轟く。途端に想いが色々と馳けめぐって、タイミングが狂ってしまう。戦闘機の爆音が空気を切り裂いて迫ってくる。一瞬、地形地物を別の眼で評価してしまう。このことを、その方に申し上げたら、「じゃ、この次からは△△〇〇〇〇と唱えてはどうですか」と教えて下さった。

有難い諸先輩のアドバイスである。

- ◇ こちらに着任した当初、秘書嬢から質問されて、びっくりした事が3つある。

1. 何故アナタのウィフは、クッキングをするのか？（何故しないのか？ではない）
2. アナタは日本人なのに、何故ゴルフをしないのか？（するか？と聞かれ、あまりしないと答えた結果の質問）
3. アナタは日本人なのに、何故カラオケが得意でないのか？

彼女のチェックポイントによると、私は、どうやら「ヘンナ日本人」と映ったのではないかと思ったりした。

それで一念発起した訳けではないが、私なりにゴルフを楽しんでいる今日この頃である。ただただ、あまりのひどいスコアに、他人様に御迷惑を御掛けしているのでは無いか、とそれだけを懸念し乍ら。

◇ 1986年 新しい年。

必ずしも波静かとは言えない、きびしい年と想いを定めている。せめて月に1回位は（だから駄目だ。せめて週1回と叱られたが）手足を思い切り伸し、コースを駆けめぐり、難局に立ち向う英気を養いたい。

◇ 今読み返して、動詞が全てゴルフ技術に反するものばかり。

だから駄目だと御注意が聞こえて来ます。

◇ 皆様の御多幸をお祈りし、今年もよろしく、これにこりずに御指導の程を。

新年雑感

理 事

三井物産株

支店長 武藤 茂棋

明けまして、お目出度う御座居ます。

シンガポールで初めての正月を迎えることになりましたが、除夜の鐘を聞いてから、寒風について初詣に出掛けると云う感激もなく、感慨を新たに云う気持ちも盛上って来ないのが実感です。

在星一年余では無理なのかも知れませんが、シンガポールについては、まだまだ判らないことが沢山あります。

最も判り難く、絶えず小生を悩ませているのは、所謂“シングリッシュ”です。どうして相手のことも考えずに、機関銃の如く早口でポンポ

ンとまくしたて、おまけに尻切れトンボのように語尾を省いて（本人はちゃんと発音しているのかも知れませんが）話すのか全く判りません。特に初めて電話で話す時には往生します。口の遅い小生など、言葉を狭む暇もなく、一方的に喋られた上、最後に、“O.K”とか“UNDERSTAND!”とか云われると、思わず“YES”と云ってしまいそうで、慌てて口を押える始末です。

次に判らないのは、季節の変化です。注意力散漫な小生にとっては、雨期と乾期の区別もつきません。樹木の一本一本を見れば、葉を落しているものもありますが、同種の樹木が一斉に落葉する訳でもなく、個々の樹のサイクルはあっても、全体で見れば、いつも緑に覆われているように思えます。50年来身についた季節感が失われるのは、淋しい気が致します。

判らぬことの一つに、小生のゴルフのスコアが有ります。小生にとっては深刻な問題です。この一年で、東京にいた頃の二／三年分（百回）以上をこなしているのに、一向に良くなりません。練習も努力もせずに良くなる筈はないと仰言られるかも

知れませんが、「習うより慣れろ」と云う言葉からすれば、当然スコアは良くなって然るべきではないでしょうか。

最後になりましたが、シンガポール経済の行方も判らぬことの一つです。この一年はどうも苦しいままで行くのではないかと思います、一年で回復基調に戻れるのかが気に懸るところです。

皆様の御健勝と御多幸を祈念申し上げます。

新年随想

理 事

大阪商船三井船舶（シンガポール）
株式会社
取締役社長 加々尾 一弘

会員の皆様、明けまして、おめでとうございます。

シンガポールも、昨年来の不況で気分も減入りがちですが、今年も、張切って、この近代国家の皮袋に、新しい経済発展の息吹きを甦らせ、併せて、ロマンのある文化の伝統を培いたいと考えます。

シンガポールの顔は、何と言っても、出船入船では世界一を数えるシ

シンガポール港です。海上から見たシンガポールの偉容は、高層ビルを背景として、奇跡的な発展を遂げた国家にふさわしい、まことに立派なものです。

弊社のことにて、恐縮乍ら、種々共同運航船を併せると、月に約80隻が、当港に入港しますが、港に接岸する時間は、平均一隻、5時間位の短いものです。本船の乗組員にとって、港は、唯一の大地であり、憩いの場所です。然し乍ら、シンガポールでは、お茶を飲む時間程度しかありません。

港には顔があり、表情があります。そして、港には、シンボルが、つきもので、ニューヨークの場合は、自由の女神、シンガポールの場合は、マーライオンでしょう。

シンボルは、歴史的な出来事に関係した、種々のものが、ありますが中でも、ひたむきに人間的なものが、人々のロマンを掻き立て、胸を打つものです。

余談になりますが、最近のジョージア（USA）の雑誌に、サバンナ港のシンボル「ウェイピング・ガール」の記事が出ていました。

これは、フロレンス・マルタスの

実話にもとづく、著名な彫刻家（ド・ウエルドン）による銅像で、フロレンスは、サバンナ港近くの小島の燈台守で、ある船員と恋に陥り、この船員と、次の彼の寄港の際に結婚を約束しました。

出発の前に、フロレンスは、彼が帰港の際、必ず最初に手を振ることを約束し、そのために、あらゆる入港船に、手を振ることにしました。残念乍ら、彼の船はハリケーンに遭遇し、彼は帰ってきませんでした。海が、恋人を奪ったのです。

しかし、フロレンスは、その後、44年間サバンナに入港する船に、昼はハンカチ、夜はランタンを振って迎えたのです。

サバンナ港のフロレンスは、その後、入港するあらゆる国の船員に知られ、彼女の死後「ウェイピング・ガール」の銅像が、港の入口で、船を迎えています。

シンガポールの歴史は、ラッフルズの上陸以来約160年、又、建国以来25年で、経済的発展と民族融和が最も重要な課題でありましたが、文化的遺産は必ずしも経済的発展の後に残されるものではなく、歴史のあらゆる時点で人間固有の深いひ

ろがりの中で、作り出されるものでしょう。

めざましい経済発展を遂げたシンガポールにふさわしい、ひたむきに人間的な、文化的遺産を、掘りおこし、培うのも、経済のきびしい折柄必要なことと思います。

初夢「1991年」

理 事

NEC シンガポール

社長 吹野 勝重

初夢。朝うつらうつらしながら見た夢の中の実に他愛のない無責任な話しである。

時は1991年、舞台は当シンガポール国。ああ月日の経つのは早いもの、俺もすでに7年ここに暮しているな。それにしてもこの7年間地震が全くなくてまずはお目出度う。うちの会社も作る製品は種々変って来たが何とか電子デバイス一本で今日まで工場を続けることが出来た。お得意様各社へ厚く感謝すると共に、当国政府と国民へもお礼を忘れてはなるまい。

思い起すと数年前、建国以来と言われた大型不況を機に相当数の製造工場が人件費高騰による国際競争力の低下と労働力の絶対数不足を嫌って他のアジア各国へ流出し、又高額設備投資の自動化工場なら母国展開が有利だと外国資本が一時的に投資を控える時期もあったが、政府経済委員会の幾つかの施策が実を結んで、今や心配無用、シンガポールは再び甦えりつつある。

まず第一に教育制度が変わった。当国の最大の資源は人材、質の高いサービスの提供やハイテク産業導入育成政策に応えるため、レベルの高い労働力の供給が必須事項であると今や中学卒業迄全員の義務教育となった。中学卒業時点で将来のコースを決めるので過去には時々あった早期進路決定による大器晩成型の取りこぼしの心配も無くなった。又親の学歴や収入には関係なく子供の能力に応じて国の資金で上級教育が受けられる制度も出来ている。同時に行われた小学校の2部制授業の廃止も含め相当数の小中学校校舎の新增設に多額の資金を要したが、HDB住宅建設の一段落とMRT終了のあとを承けて土建業界救済事業として極め

て短期間に整備し終えた。

ハイテク産業向技術者の供給は政府が10年ほど前からNUS・NTI・各ポリテク・FSI・GSI・JSTIなどを強化して何とか絶対数は確保され始めたが、ハイテクにふさわしい修士レベルの養成は依然不足で、政府の給料抑制策にもかかわらずこの人達の給料はアジア一高くなっている。

この国で大きく変わった2番目の点はハイテク産業の他国籍企業(MNC)頼みを脱し、政府・ローカル資本を結集して有望業種に自前進出を始めたことである。国立ハイテク研究所が設立され、かつて韓国・台湾でも行われたように多額の資金を投入し同時にサポーター産業の強力な育成にも力を注いでいる。なおこの資金に政府が国営企業を民営化して調達したものが使われている。

3番目に、数年前の大不況以降政府が必死になって打った幾つかの当国経済浮揚対策、国際競争力回復向上対策をまとめてみる必要があります。法人税・CPF賦課率の低減と賃金上昇抑制策で企業はコスト競争力がつき、個人は所得税とCPF率低下で可処分所得が増え国内消費

活性化に連りました。

又ジョブホッピング税が新設され一定期間同一企業に勤務しないときは次の勤務先のCPFから税金が引き去られることになりました。このため従業員の定着率が向上し、企業内訓練の効果も上り、多能工制度も一般化して来ました。この他にもNPBの教育セミナーの料金が一日当たり最高20\$に抑えられたこと、紙切れのQualificationの代りに実力で人間の評価が決まりつつあることなど当然のことが実現した例がいくつもあります。

最後に社会生活でも変化が見られます。性悪説に基く発想は依然変らないが、街中のトイレはいつもきれい。自動車運転のマナーは皆一段と向上、緑あふれる美しい国、外国人がどんどん帰国してアパート代は更に下がった。自由の満喫。ああ、あとしばらく当地に住むことにするか。



「カラオケ解禁」

理 事

新日本製鉄株式会社

事務所長 野明 宏次

昨年暮れKLで、マレーシア重工業公社のアニヴァーサリー・ディナーに出た。ポリスコンボが演奏するオープニングナンバーは、何と日本の演歌「与作」北島三郎一であった。

前の晩は、ある日本人の家で、カラケパーティを楽しんだ。このカラオケ同好会？はメンバーが20人程で、半分は日本人商工会議所の理事サンである。この会はもう3年続いており、小生は創立メンバーの1人ということで今でも必らず出さして貰っている。

小生宅にもカラオケセットがあり、職場の仲間や、仕事で親しくなった諸兄と、時々ミニパーティをやって斯道に励んでいる。

或る高名なお医者、健康増進のため、特に中年層に、カラオケをすすめている。理由は1)大きく息を吸う。2)うまく歌うには、酒・タバコのとり過ぎや寝不足はダメ。3)ストレスが解消する、の3つである。

たしかに、カラオケの歌詞をマジメに考えると、全く通俗的で、ふだんはテレくさくて言えないような文句がならんでいる。けれども勇気を出して歌ってみるといつのまにかメロディーに乗って感情発露が素直になってくるのは不思議だ。カラオケは、かくして、絶好の「精神解放」の場を与えてくれている。

ここシンガポールは優等生国家を目指し、当局の指導・規制が多岐に亘る。マレーシアが長かった小生にとっては、かなり窮屈だ。なかんずくカラオケ・ラウンジ禁制だけは痛い。

政府の高官であったケッペルのシム会長さんに禁制の理由をきいた所、彼はその事実を御存知なかった。更に同氏は、観光立国のシンガポールにとってカラオケの好きな日本人観光客は大切であり、観光促進のためにカラオケにも十分配慮する必要があるのではないか、とまで言ってくれた。

新年の初夢となるとかなりオーバーですが、当地の高級クラブでカラオケをまあまあ上手に歌えて、皆様の温かい拍手を受けてテレている小生の姿、いかがなものでしょうか。

新年雑感

理事

日商岩井株式会社

シンガポール支店長 岡崎 徹朗

1983年8月に赴任以来3度目の正月を当地で迎えた。時の流れの速さに驚く。初年度は当地及び周辺国に未だ活気があり業務に、訪星客のお世話に、可成り忙しく自分の為の余暇が全く持てなかった。一人息子の教育問題で単身赴任を余儀なくされているがあの忙しさではむしろそれが幸いしたと思っている。

御高承通り84年に入ってから当地の経済成長率は各四半期毎に確実に低下を続け現在建国以来初めてのマイナスを経験している。過去の高度成長が先進国のパターンとは若干異った形で達成された事への修正でもあるし、オイルグラット、一次産品価格の低迷との絡みで全世界が低成長時代に突入した事、周辺国のインフラ整備に伴ってシンガポールへの依存度が急速に低下した事などを考慮すれば必ずしも従来の高質銀政策に依る輸出競争力の低下が主因と決めつけ得ないと思う。

資本蓄積即ち国民の貯蓄が異常に高いシンガポールでは消費性向が低い上に製造業の不振を建設部門の拡大でカバーしたわけでその建設部門が大巾にダウンすれば成長率は当然低下するわけである。現在どの部門をみても成長を押し上げる活気がなく企業倒産が相次ぎ年末には証券取引所が閉鎖されるという大事件も起り株価は暴落し、シンガポールが今後共繁栄の立役者として期待して来た金融センターとしての信用度の低下は手痛い事であろう。

この様に景気が後退し周辺国も含め、めばしいプロジェクトも少くなると内地からのVIPの訪星も激減するし、我々の接客業務は次第に少くなりつつあるやに見受けられる。特に単身赴任者の場合余暇をいかに過すかが問題になって来た。某紙にEXPATRIATESの悲哀というコラムが掲載されてたがシンガポールは単身赴任者にとって必ずしも住み易い所ではない。活動範囲が狭く文化も少いこの島国では勝手気ままな行動も出来ず不自由な面が多々ある。

昨年2月頃と記憶するが内地の某TV局が企画した海外の単身赴任者特集の一環としてセミションが寄り

集りそのシーンを録画放映されたが
単身赴任者の悲哀とかわびしさを強
調せねば絵にならぬらしく我々の本
音とは違った形で披露されTVの

“やらせ”に怒りを感じたものであ
る。昨年夏のやらせリンチ事件の素
地はあちこちに見受けられ大衆のTV
放れがうなづけよう。

上述の集りがきっかけとなり、同
類が集って懇談、食事をしようと有
志に依り SINGAPORE SINGLES'
SOCIETY (通称 3S 会) が発足し
既に昨年 4 回の会合が持たれたが、
さすが選ばれて海外駐在されている
方々のみなのでマスコミが取り上げ
る悲哀なムードは全くないし、夫々
が単身生活の経験を披露し合ったり
人的関係強化も役立っていると思う。
感心させられる事は夫々がそれなり
の健康管理に配慮しておられるし、極
めてなごやかな集りをエンジョイし
ている。メンバーも次第に増えつつ
ありこの会は益々発展して行くだろ
うし、一つの社交の場として文化、
経済を論じ、シンガポールの地域社会
にも貢献して行くバイタリテイを養
う場としても永続する事を祈念して
止まない。

新年随想

理 事

日本郵船（シンガポール）株式会社
取締役社長 那波 光俊

明けましておめでとうございます。

独立以来続いてきた驚異的な高度
成長から一転してマイナス成長と 85
年はシンガポールにとって、洵々シ
ョッキングな年となりました。残念
乍ら 86 年は更に厳しさを増すだろ
うというのが大方の見方の様です。

一般的に不況になればなる程、同
業者との競争が熾烈になります。私
の属する海運業界も例外でなく、世
界的船腹過剰状態に加え、景気低迷
に伴う荷動きの減少、円高と 86 年
は生き残りを賭けた“SURVIVAL
GAME”元年、闘いの幕明けと覚悟
している次第です。

“闘い”と云えば、米軍の現代兵
法の虎の巻ともなっている“MOOSE
MUSS”と云う 9 つの頭文字で表わ
される“闘いの原則”がある事をご
存知の方も多いとは思いますが、不
況克服の一助となるかも知れません
ので、ご紹介しましょう。

MANEUVER (作戦行動)
OBJECTIVE (目的)
OFFENSIVE (攻勢)
SURPRISE (奇襲)
ECONOMY OF FORCE (兵力節約)
MASS (集中)
UNITY OF COMMAND (指揮系統一本化)
SIMPLICITY (簡潔)
SECURITY (機密保持)

陸海空軍、海兵隊、沿岸警備隊に所属する将兵は、この教訓を軍事訓練や実戦に際し、繰返し叩き込まれるのだそうですが、マーケティング部門で、この闘いの原則を応用している米国企業も可成りあるそうです。

何んといっても平和が第一。斯かる余計な事を考えずとも各企業が益々発展して行く事を願いつつ、宝船の絵でも枕の下に敷いて、寝正月を決め込むとしますか。



新年随想

理事

株式会社 大林組

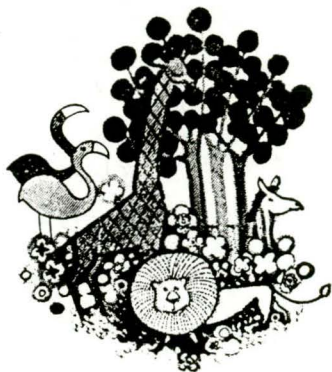
駐在員事務所長 中嶋 俊明

新年明けましておめでとうございます。

シンガポールで迎える六度目の正月も、中国正月の方がしっくり感じるようになりました。当国高度経済成長時代の特に建設工事のすさまじい盛況の中を現場で過ごして来た私には、予測して居たとは云え、昨年来の急激な停滞に直面し、大変難しい新年を身を引き締めて迎えた次第であります。昨年はこうした環境の中でMRT工事に關してWITHOLD TAXの問題、或いは地元紙による日本建設業者に關する記事及びそれに関連しての報道関係による取材等に直面し、大使館、商工会議所、及びOCAJIの方々に大変お世話になりました。

本年も同様に大変厳しい環境が待ち構えている事と推測致しますが、会員皆様方から多々御指導賜りたく本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

ここで過去5年間のシンガポール事情を狭い視野で振り返って見ますと、81年7月にチャンギー新空港がオープンした頃は、建設工事に対する当国の資材、労務の供給事情が未だ不足ぎみで、丁度U R Aによる土地売却が大々的に行われ其れに伴う建設工事の盛況が当然予測され、一体どう云う状況になるのか大変不安でした。何代ろ砕石プラント設備が一台修理に入っただけで日毎に販売価格が上昇する有様でした。又、我々の住居賃貸料も83年迄は、上昇一方であった事を思い出しますと現在の不況安定状態が逆に心理的圧迫を受ける次第であります。諸説を総合しますと本年も引き続き経済状況は横這いとの事ですから我慢第一をモットーに、頭の切り替えの年したいと思います。居ります。



「旅」

理 事

岡本（シンガポール）株式会社

副社長 三森 和正

正月旅行に出なくなってから久しい。元来旅行好きな方なので、日本国内は勿論、家内と共に海外にも足を伸ばし、特に正月休みには「フルムーン旅行」を楽しんでいた。もっとも家内の方は出不精なので、専ら楽しんだのは夫子自身かも知れないが。

何の因果かシンガポールに赴任することになり、今度は勤務地自体が旅先の様なもので、おまけに日本と違って夏休はもとより、ゴールデンウィーク、正月休も無く、わずかにチャイニーズニューイヤーと称して2〜3日の休みがあるだけの勤勉な国なので、旅行に時間を割くことは大変にむづかしい。

着任当初はそれでも物珍らしく、周辺を行き当たりばったりに廻ってみたものの、狭い島国では知れたものだ。従って忙がしい仕事の合間に、次の旅行の計画をたてる楽しみをすっかり奪われて了った。

業務の都合上、近隣諸国や、時には欧州あたりまで出張する事もあるが、仕事と遊びは別物で、目的の仕事が片着くまでは気が重いし、終わったら終わったで、一目散に帰って来なければ、次の仕事が片着かない。自分では生れ乍らの働き中毒とは思っていないが、シンガポールの工場を動かすには、やはり自分が動いて見せなければならない様な気がするの
は、昭和一桁生れの宿命なのかも知れない。

ところがである。幸か不幸か、昨年秋頃からの不況に見舞われて、仕事量がぱったり減って了った。こうなると会社の責任者として仕事をかき集める方の忙がしさが増すわけだが、工場の方へは、少い仕事を如何に喰い伸ばすかの算段をしなければならない。この機会に各種のトレーニングもやりたいし、何よりもコストを下げる為の改善も必要である。

然し、全体としての稼働日数は減らさざるを得ないので、昨年よりも若干の余裕が出る筈だ。この機会にかねて念願の旅行をと、心ひそかに願っているが、果して結果は如何であらうか。

しかし、仕事を忘れて旅に出るの

は楽しい。そして、その旅をあれこれ計画するのは更に楽しい。所詮人生は旅である。往く先々に何が待ち構えているか、期待と好奇に満ちてこれからの人生を旅して行きたいものと思っている。

小売店あれこれ

理 事

(株)シンガポール大丸

代表取締役 秦 悌之

新年明けましておめでとうございます。

商売柄、流通小売業について、何か申さねばならないと考えました。でも、当地の小売店に焦点を合せますと、生々しいことになりそうですので、一般論として、日本の百貨店が、今、何を考え、苦悩し、変身しようとしているのかに触れたいと思います。

昭和40年代の“一億総〇〇型”マス消費ブームが、再び到来しようとは、業界の誰もが考えていません。その時代とは、ナショナル・ブランドがマス、メディア広告による無差

別情報空爆で、寡占化を果した頃のことです。

ファッションも、電化製品も、食べものも、おもちゃまでもマス・メディアに乗って、全国津々浦々に普及し、ブランド神話を創りだしました。

つまり、高品質を原点として、消費者の同質化願望に応えたトップ・メーカーは急成長を遂げました。小売店も、その流通チャンネルに乗っていれば、リスクなく収益が得られたのです。

しかし、消費者の価値感もライフスタイルも、どんどん変わりました。も早、有名ブランドでも品質に問題があれば、商品たり得ませんし、高品質は必要条件であっても、個性化した消費者を満足させるための第一順位ではなくなりました。

今、物を売る側にとって、消費者を「大衆とは呼ばず、「分衆」などと云いだしています。消費者が志向する差別化、個性化欲求にとって、マス・プロ商品（特にファッション）は、マイナス付加価値でさえあるのです。

しかし、果して、品質が保証されコストが合理化されたマス・プロ製

品に対抗できる商品の調達が可能であったでしょうか。

同質化に嫌気をさした人々は、有料のマス・メディアには掲らないが無償の取材掲載に登場するデザイナー・ブランドやキャラクター・ブランドの高感度に、ナショナル・ブランド以上の値段を惜しみなく払ったのです。

特に、感性豊かな日本のファッションデザイナーの創作は、一時、モノトーン・ファッションとして世界を席卷しました。

しかし、この新興差別化商品も、今までナショナル・ブランドで支えられていた売上げを代替してくれる程のボリュームにはなり得ませんでした。つまり、差別化商品がボリューム化した瞬間に、差別化商品ではなくなるからです。

こうした消費の細分化と共に、百貨店苦悩の時代が始まるのです。今までは、寡占ブランドをさしたる努力なしに売っていたのが、そうでなくなると、競合店にない商品探しに奔走しなければなりませんし、自社で物作りにまで手を出さねばならなくなりました。もともと物作りの機能などありませんから、既存メーカ

一に対抗するのは容易なことではありません。同時に売り方の発想も変えねばなりません。大量宣伝で誰もが知っている商品なら、ただ、陳列すれば良かったのが、消費者の好みを先取りした商品であれば、従来型の陳列では事足りません。情報を加えた提案販売になるのです。売場では、消費者のライフスタイルに合った商品をTPO別に区分して、演出陳列することになります。マス・コミによる空爆的情報発信に替って、店舗が高感度情報の提供の場になり、コミュニケーションの媒体になると考えるのです。この結果、巨額の費用をかけた店舗リフレッシュ競争が、今なお進行中なのです。

昔と今の百貨店では、商品配置が大きく変って来た、と皆さんお気付きでしょう。お客様にとって、便利か、不便か、この苦肉の策が、果して支持されるのか、まだ答えは出ていませんが、ジャッジは勿論、お客様、百貨店苦悩の時代は当分続きそうです。

翻って、この国では……。価格志向が、優先順位のダントツで、高品質願望にまで至っていないのが現状です。その点で、何年遅れているのか申

し上げるまでもありませんが、消費者の可処分所得の差もあって、日本と同じパターンを辿るとは思えませんし、日本にも増して、難しい商都です。

雑 感

理 事

新加坡錶廠有限公司

取締役／ジェネラル・マネジャー

小林 紀夫

シンガポールに赴任して3回目の正月を迎えた訳ですが、どうしても新年という気分になれない。このことは私一人だけでなく、同じ気持で新年を迎えた人が、会員の皆さんの中にもいることでしょう。赴任して最初の正月を迎えたときは、スーパーマーケットからお供え（鏡もち）を買ってきて、石畳のリビングルームに飾り、しばし望郷の念にかられていたものでした。しかし今では、とてもそんな気持になれない。これもシンガポールの生活に慣れてきたためではないかと思えます。

海外での生活に慣れてくるに従っ

て、ものの考え方も変わってくるものです。赴任当初は生活様式のちがい、言葉の不便さ、また地理の不案内さ等、様々のハンディを実際以上に感じ、大変な場所で自分は、これから生活していかなければならない。これは困ったぞ等と思う。然し囲りの人は、今の私達と同じように、ごく自然に、まるで生れたときからそこに住んでいたかのような顔をしている。このような場合、新しく赴任した人は、『自分は特殊なグループの人間であり、囲りの人（会社や日本の本社）はもっと自分に対して、面倒をみてくれてもよいではないか』いやみるべきだ等と勝手な要求を出し、それが達せられないと、大きな不満になり、いつもブーブー不平を言う人間になる。このことは私生活面にも見られるし、また会社の仕事にも見られる。ところが1年経ち2年経つうちに、この不平不満もいつの間にか沈静化して、今の私達のようになるのではないのでしょうか。

『基本的には日本での生活も、海外での生活も同じである。若干のハンディはあるものの人生という本質に変りがある訳ではない。だから自分の人生に対して素直且つ誠実に生き

ることが大切だ。』などと偉そうなことを、新しく私どもの会社に赴任してきた人に言い続けてきました。

今年も沢山の人が、チャンギ空港で帰任、着任されることでしょうが、生活の本拠がどこであっても精一杯人生悔いのないように過したいものです。

調和

理 事
株式会社住友銀行

支店長 赤松 孝彦

昨秋、私どもの銀行では創業90周年を記念して東京・大阪の両メインオフィスの営業場にてシンフォニーの夕べを催し、大勢のお客様に喜んでいただいた。

約20年前、冬のニューヨークで私をなぐさめてくれたのは、カーネギホールでの各国一流のオーケストラの演奏であった荘大な音のボリュームもさることながらその見事な音の調和に引きつけられたものだった。

世界のあちこちで不協和音が響く昨今、私は我々の社会に調和が欠け

ているのではないかと痛感し、カーネギへ通った当時を思い出す次第である。

もうすでに忘れた人達も多いかと思うが大勢の人達を集めたEXPO 70のテーマは「人類の進歩と調和」であった。

先般豪州各地を訪れた際、現地で面談した金融関係者が一様にシンガポールの昨今の経済不況につき尋ね、あの奇跡の発展をとげたシンガポールでさえとの声が聞かれた。

短期間で高度成長を果たしたこの国にとってもし欠けていたものがあったとするならば、この「調和」ではなかったかと考えた。

私は喰いしんぼうであるが日本料理のよさを味のよさと材料及びその色の調和に求める。お正月のおせち料理はおめでたさを見事に引き立ててくれる。

新しい年を迎えるにあたって家庭・職場・社会での調和をモットーにして行きたいと殊勝なことを職場の同僚に語った。

ゴルフ・麻雀・仕事・勉強これらをどのように調和させるか課題であるが、どうやら新年は前二者が先行してしまったようである。

新年随想

理事

聯合電子工程（私人）有限公司

社長 勝山 隆善

新聞の紅白歌合戦出場歌手名を片手に、トランジスタラジオを囲み、時々わずかに聞えて来るメロディの中から、「多分あの歌手が、今この歌を歌っているのだろう」と想像し合ったのがついこの間のような気がするが、早いもので、何時の間にか在星八年目を迎えようとしている。先日新聞で見た今年の出場歌手名は名前は別にしてその半分も顔を知らないと言うのも、無理のない話である。

『一年の計は元旦に有り』と云われて育っては来たが、Tシャツにショートパンツ姿の正月がこうも続くと、新年と云う感覚が無くなりつつあるのが自分の実態ではないかと思っている。この前、会社の年間休日計画検討の時、「旧正月の休みに、もう一日振替休日を持って来たいな」と云ったら、ローカルの総務部長が、「一月一日を持って来ませんか」と提案してくれた。元旦を出勤して振

り替えにすると云う彼の発想に、びっくりしなくなっている自分に気がつき、驚いた次第。

こんな事を書いていたら、日本へ帰った二人の娘が、夫々の場所で、どんな一年の計をたてたのかと思い、次に会う機会の楽しみがまた一つ増えた。

新年所感

理 事

横河電機シンガポール(株)

社長 渡辺 昭雄

会員の皆様、明けましておめでとうございます。

私もこの国に来てから三度目のお正月を迎えました。昨年の当地のオーチャード・ロードのクリスマス・イルミネーションは一昨年にもまして華麗なものでした。昨年前半から襲ってきた不景気風を一気に吹払おうというのだったのでしょうか？

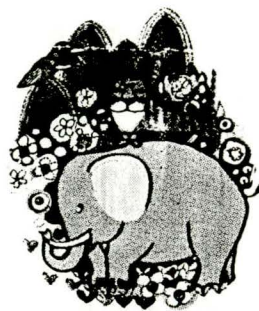
昨年は解雇する会社が相つぎ、おかげで当社の退職率も減少し、落ち着いた仕事をすることができました。一昨年まで、採用に頭を悩していた

のが嘘のようです。ちょっと過ぎれば、たちまち溢れ、ちょっと足りなくなるとたちまち欠乏という当地の特性を実感した年でした。

製造専門の当社としては、昨年も品質向上、コストダウン、Q Cサークル活動に追いまくられた感じでしたが、まあまあの業績をあげることができました。

今年はどうかということですが、日本の半導体メーカー各社の設備計画の修正・中止の影響がいよいよできて、注文がへり相当苦しいと覚悟しています。より生産性の向上、コストダウンに徹するより道はないと思います。

新年早々、かた若しいことばかり申しましたが、会員皆様の御建勝、御繁栄をお祈り申しあげる次第であります。



1986年新年随想

顧問

ペトロケミカル・コーポレーション
・オブ・シンガポール

社長 香西 昭夫

明けましておめでとうございます。

シンガポールでのお正月は、私にとってこれが二回目。本当に早いものです。身の引締まる冷氣の中で聞く除夜の鐘、家それぞれに伝統のお雑煮の味、家族揃っての初詣で。なつかしく日本のお正月を思い出しますが、クリスマスから新年にかけてのオーチャードの飾付けも見事なもの。今年は一段とイルミネーションが華やかさを加えたのは、きびしい不景気の故でしょうか。

確かにこの一年、急激な変化が当地の経済に現れました。政治にも社会にも確かな変化の兆しかあります。シンガポールだけではありません。急に円が強くなって、今年の日本経済は一体どうなってゆくでしょう。アメリカの経済は再び過去優位を取戻せるのでしょうか。ソ連や中国でも、国内の経済や政治に大きな変化が見られます。平和と繁栄を目指す国際

努力は、今年こそ一層の前進を期待できるでしょうか。

ますます狭くなる地球、目覚ましい技術の進歩。十年ひと昔といいますが、十年前に果して何人が今日の世界を予測し、さらに我々の何人が、これからの十年を間違いなく予測できるでしょうか。しかし確実に、静かに、大きな変化が1990年代へ向けて、21世紀へ向けて進行しつつあります。しかもその変化が、我々の小さな仕事や生活に大きな影響を与えずにはおきません。

考えてみれば、こうしてシンガポールでお正月を迎えるのもこの大きな変化の、流れのひとつま。どうか充実した悔いのない一年であってほしい、と祈るように思います。

会員諸兄の一層のご活躍を心より祈りあげます。

独身雑感

監事

シンガポール・野村マーチャント・
バンキング・リミテッド

社長 沼野 健司

明けましてお目度とうございます。

80年の6月、香港での勤務以来、海外での独身生活も6年目を迎えました。馴れというのは恐ろしいもので、今では偶に東京へ帰りますと、その慌ただしさ、人混み、兎小屋以下の我屋等々、ほんとに草臥れて、チャンギ空港へ着くと真底ほっと致します。朝はゆっくりと起き、通いの婆さんのムシッタ2、3枚の菜っぱとコップ1杯の冷水で、冷房の良く効いた車に乗り込み、B Tを眺めている内に会社に御到着、誰にも気兼ねすること無く1日の仕事が始まる。たとえ日系新聞のスポーツ欄を夢中で読んでいる時であっても、うるさい本社からの電話には“只今来客中でございます、折返しこちらからお電話致します。”秘書が気を効かせて応待してくれる。夜は夜で家へ帰れば子供の成績が下ったの、大根が高くなったのという愚痴もなく、専ら外で好きな物を、気のおけない仲間と楽しみ（つき合わされる連中の心中は全く斟酌しないのが当社の善き伝統です）何時に帰宅しようが待つ人の居ない、という事は何んと自由で楽しい事か。日本に居れば通勤に時間をとられ本を読むのも満員電車の中、こちらではカタイ本は会社

で読み、家では池波正太郎あたりをベッドにひっくり返って誰にも邪魔されずに楽しみ、興がいたれば日曜日には、小説の船宿の亭主よろしくいそいそ一人で買物に行き、すべて目の料理をつくり、出来が良いと、誰かれ構わず会社の連中を電話で呼び出し、無理矢理美味しいと言わせながら、たっぷりと酒を飲む、正に独身ならではの生活です。休日はゴルフかテニスが御当地の相場ですが、私も身体を使う方はどうやら皆様に御迷惑をおかけしない積りです。ただ、頭と手先だけを使う方はからっきし駄目で、昨年は尊敬する大使閣下、敬愛してやまないN商社のO氏他の皆様には、まるで子猫を扱うが如く可愛がられました。

本年は心機一転虎の如く逞しくなりたいと念願しております。

シンガポール経済は正に泥沼の様相を呈しております。私共、変動の世界に生きる者にとっては森羅万象総て“谷深ければ山高し”の原則を肝に銘じております。暗闇の中に一筋の光明を見つける事も永年の習性となっております。今年は幾筋かの光明が見えるような気が致します。仕事に遊びに大いに張切りたいと思

います。皆様どうぞよろしく。

新年随想

オブザーバー

ジェットロ・シンガポール・センター

所長 井手 俊弘

皆様、新年明けましてお目出度うございます。シンガポールで迎えるグリーン・ニュー・イヤーも、早いもので三回目となりました。海外勤務も当地で4カ所目となりますが、実はアジアの勤務は当地が始めてで、それだけに、学ぶべき事が多く、シンガポリアン、在星日本人の皆様、在星外国人の方々などと出来るだけお話しをする機会を多くしたいと考えております。当地に参ります前には、シンガポールというと中国系国民が多く、学校時代の学んだマンダリンを話す（もし可能であれば）機会が生ずるかと内心危惧の念を持って赴任して参りましたが、仕事の上では、英語万能といってよく、マンダリンは例外的ケースといってよい様です。私共の大学（東京外語）の卒業生のなかにも、中国語を専攻し

た方々も何人もおりますが、仕事により違いますが、中国語は殆んど使う機会がなく、D社のI君のようにゴルフ場に行って、“シアオ・チエ”にオーダーする時のみという人も多いようです。

新年というと、前任地イスタンブール（トルコ）のある新年が思い出されます。イスタンブールへ行かれた方はご存知のとおり、トルコの冬は結構寒く、イスタンブールも道路は朝晩凍結し、雪も一冬に数回降る程です。当時は、トルコが政治的・経済的に混乱期にあり、戒厳令下、外貨不足に悩んでいる時期でした。トルコは、石油の4分の3を輸入に依存しているわけですが、外貨不足から各家庭の暖房用燃料油が入手出来ずアパートのセントラル暖房兼給湯用燃料がなく、真冬の毎日が暗い日が続いておりました。事務所の暖房は、セキ・ストーブ（街角で売っている薪を買って乗用車で運び）で凌ぎ、自宅の暖は小型の電気ストーブで補いましたが、日本人として風呂に入れないのは我慢出来ず、年末・年始はお風呂に入るためイスタンブールのシェラトン・ホテルに一家4人で滞在するということになりました。その後、トルコ経済はすっかり持ち直し、今年は

日本からのミッションの訪土ラッシュ、第二ボスフォラス・ブリッジの建設が始まるなど、すっかり様子が変わったようです。皆様“モーロク”というトルコ語をご存知でしょうか。実は日本語の“もうろく”と同じ意味ですが、この一年中夏のシンガポールに住んでいますと記憶力が衰えて来ているようなので、モーロクしないよう身体と頭を練えたいというのが、今年の年頭の所感です。

一年半たって

オブザーバー

在シンガポール日本国大使館
一等書記官 細谷 孝利

シンガポールに赴任した時、前任者から在星中の課題を二つ与えられた。

第一は、語学力の向上である。小生、元々は通産省からの出向であり、語学に自信のある方ではない。しかし、ここは曲がりなりにも英語圏であり、気力が持続すれば多少は何とかなるはずだった。

第二は、ゴルフの上達である。日

本では碌にやったことがなくても、当地の環境はすばらしい。歴代前任者の中にはシングルになり帰国した者も複数おり、そうでなくとも10代半ば程度にはなった由。国内で赴任の挨拶回りをした時にも多くの諸先輩、同僚からゴルフがうまくなるだろうと揶揄われた程だった。

しかし、一年半たって即ち任期の半分を経過して明らかになりつつあることは、いずれも十分な成果を挙げられそうにないことである。

語学の方はシンガポリアンに早口で巻くし立てられるとさっぱりわからない。日・シ関係が良好なおかげでそんなにハードなものもないから救われているものの、政府の役人と接衝する時などいつも冷汗ものである。こちらの言いたいことも十分言えないのを棚に上げ、シングリッシュだからなあ、等と自らを慰さめている。

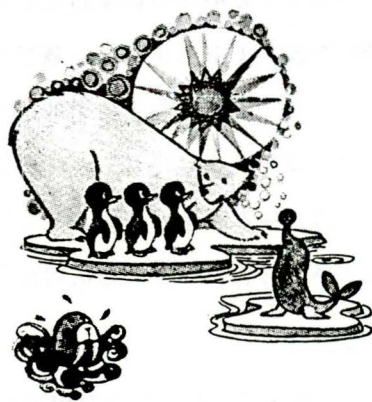
ゴルフの方は赴任時の1R140前後から100前後までは順調に行った。本年6月まで下限の27だったHCも7月ようやく26、8月には22、9月21と改善したが、その後がいけない。10月には23に下り、11月、12月は25と更に

下がってしまった。

シ経済停滞の影響からか、このところシ側の対日要求は厳しさを増してきている。例えば日系企業に対し軒並み生産の一定比率を日本へ持帰るような協定の締結を求められ、その取扱いに苦慮している。現下の平穩がいつまで続くかに疑問を挟む向きもある。他方、数をこなせばゴルフが上手くなるものでもない事を痛感しているが、上達するためには数をこなすことが必須であろう。小職

としても、日・シ関係が良好に推移することを心から願っている次第である。

もっとも語学力向上のためには、ハードな交渉を通じ下手なりに修羅場をくぐらないといけないかも知れないが……。



生産性向上プロジェクト その経過

QCC, TQC を中心として

PDP長期派遣専門家 佐藤 和親

シンガポールにおける生産性向上プロジェクトも開始以来2年半余りを経過しました。その間JCCI会員各社の皆様の絶大なご支援により御陰をもちまして指導期間も半ばを過ぎようとしております。本誌上を借りまして先ず御礼申し上げる次第です。

本プロジェクトは鈴木前首相がシンガポールを来訪された際、アセアン人造りの一環として、シンガポール側の意向を入れ開始されたものです。過去2年半の間に12人の長期派遣専門家及び80名近い短期派遣専門家が生産性向上のあらゆる分野につき様々な指導をいたしました。又100名近いNPBを中心とするシンガポール政府職員が研修生として日本に派遣され我が国における生産性向上の考え方、またその実際を学んできております。以上は技術協力の一環として実施されたものですが、この他に無償援助として多数の生産性関連の教材が本プロジェクトの為に特別に用意されNPBの訓練コースの中で活用されております。又同じく無償援助として数多くの視聴覚用機材が供給されスライド及びビデオの制作に役立っております。このように全体として本プロジェクトも調査検討の段階を終了し表面的には順調に進展しておりますが、我が国として初めてのソフトの技術協力でもあり、その内容を充実させる為には改善の余地が多々あります。後半2年半のプロジェクトの運営につき桜井プロジェクトリーダーが中心となり現在検討している段階です。近い内にその構想につき桜井リーダーより発表させていただく機会もあることと考えますので今回は自分の関連している分野につき、その状況を報告させていただきます。

1. 小集団活動（QC サークル）

シンガポールの小集団活動は民間企業のQCC及び政府期間のWITS（業務改善チーム）の2種類の呼称がありますがそのどちらも同じ職場のメンバーがサークルを結成し日常の業務改善をテーマとして活動しております。サークル数は民間、官庁相半ばしますが順調に発展してきております。従って小集団活動関係の指導も当初は何故この活動が生産性向上に効果があるか説いて参りました。最近ではいかに活動を持続させるか、その具体策につき指導を深めております。

シンガポールの小集団活動も量からいよいよ質の段階に入ったといえましょう。

この2年間の指導を振り返ってみますとシンガポール人の特性が余りに短期的に効果を求めたがる傾向が顕著で「急いては事をし損ずる」危険が見られた為サークル活動は結果よりも過程が大事であると声を大にして説いてきました。こうした傾向も最近やっと少しずつ改められ多くの関係者がサークル活動にはそのプロセスが大切であると講演会等で発表しているのを聞くとやっと指導効果が出て来た感がいたします。しかしながら、その内容の子細に検討しますと余りにも業務改善中心で余裕がありません。日本での経験からして、もっと遊び心を注入する必要があります。PDP派遣の専門家として今後更に効果を上げるために下記の点に留意し指導してゆく予定です。

I. 整理、清掃、整頓、清潔（通称職場の4S）をQCC活動を通じて徹底させる。

職場の4Sは高生産性を実現する作業の基本です。残念ながらシンガポールでは未だ徹底しておりません。労使双方とも4Sが生産性向上に密接に関係しているとの意識が充分でないようです。4Sを成功させるには経営側の意識を高める事が最も大切ですが、QCCはその下支えとして4Sをプロジェクトテーマに取上げる事により、自ら職場を整えようとする気持ちが育成されます。

掃除、整頓等、従来職務範囲に入って居なかった作業も新たに含まれるかも知れませんがQCCは自主活動ですからテーマを解決したとなれば自らの意志により強制されるものではなく4Sを実行する事になります。

QCCを通じシンガポールの生産性阻害要因の一つである職務の高い壁が少しでも低くなり職務範囲の拡大が計れるのではないかと期待しています。

II. 安全作業の徹底をQCC活動を通じて計る。

安全の問題も4Sと同じく職場の中では生産性の向上と切離され単に「安全は健康な生活を守るために必要」との理解が一般的である感じがいたします。日本のQCCはそのプロジェクトテーマの17%は安全問題から取上げられているとデーターが示すように、安全の向上は業務改善に結びつくとの考え方が一般的です。

自らの手で安全を確保し高生産性を維持するよう指導する予定です。

Ⅲ. 提案制度をQCCと結びつける。

提案制度も安全問題と同じくQCCと切離されて一般には考えられています。勿論提案制度はそれ自体独立して存在するものですが、QCCとの関係は本来非常に深いもので、両者は相まって発展する関係にあります。

シンガポールではQCCが先行し提案制度は未だ提案箱の設置で終わっている状況で、提案制度が企業にしっかりと根を下ろしたとは言えません。QCC活動を従来の問題解決プロジェクト型から提案活動を含む幅広いものにし、提案、QCC両者を活性化したいと考えます。

Ⅳ. QCC活動に有効な各種方法の紹介、指導。

先にも述べましたがシンガポールのQCCは問題解決型の非常に真面目な活動を続けております。それ自体は問題ありませんが、こうした活動は長期間持続させるには無理な面があります。

QCCの基本は一度始めたら活動を持続させることにあります。

日本のQCCも活力ある活動を持続させることは大きな問題でして、QCサークルは直ぐ急死サークルになるとかまた休止サークルであるとか言われその防止策が種々考案されております。こうした手法を逐次紹介しサークル活動の持続を計っております。その一環として昨年10月には第一回のQCC展覧会を開催しました。又11月に開催されたIEQCC（国際QCC大会）ではカードを使い立って行なう会合の進め方に就いての紹介を行ないました。この様な新しい手法は今後も次々に紹介しサークル活動の活性化を計って行く予定であります。本年は日本よりレクリエーション関係の短期専門家を招きQC活動にゲームを紹介しようと計画しております。これによりQCCは楽しいものとの考えを定着させる予定です

2 TQC

教育を受けたシンガポリアンの一般的特質として、新しいものを知り導入したがる傾向があります。この積極的姿勢が今日の繁栄を築くバックグラウンドである事是否定出来ませんが低成長時代となると外国で開発された新手法をそのまま導入しても役立つこの国に適應させる為、一工夫必要となります。TQCについてもいかにシンガポール適應させるか考慮する必要があります。

前述しました通り知識欲旺盛な経営管理層の間にはTQC、クオリティマネジメント全社的品質管理と新しい言葉が氾濫しTQCについて混乱が見られます。過去2年間の工場訪問、QCC診断等を通じシンガポールには日本で言う品質管理が日本企業を除いてはほとんど実施されて居ない事が判明いたしました。

こうした中で単に知識丈が氾濫しても実際の経営改善には何の効果もありません。

TQCを正しく普及させるにはそれなりの順序があります。PDP専門家関係者の間ではシンガポールにおけるTQCはまず日本的品質管理の普及が必要であるとのコンセンサスが出来ております。従って今後の指導は社内のQC又はQA担当者および管理者を対象に日本の品質管理部課長コースに相当する程度の教材を仮称「品質改良講座（QIワークショップ）」として開発する予定でおります。これにより昨年開発したTQC入門セミナーは経営トップ用の講座と位置づけワークショップに変更する予定です。そしてケーススタディを加え内容を充実し、TQCとは何か、正しい理解を得た上で実践に移って行くよう指導する予定でおります。

TQCは日本に於いても若干の批判があり時代の寵児になっているとは言え定説のない経営手法です。それだけに一步指導を誤ると予期せぬ方向へ行ってしまう危険があります。こうした過ちを犯さないよう、先ず品質チェックのQCから品質管理のQCへと日本式品質管理を定着させ、更に全社的目標を掲げた正しい目標管理が出来るように指導してゆく予定でおります。

この指導を通じTQCの技術移転が容易になるよう上記2コースの訓練終了者より希望者を募りTQCスタディーグループを結成する予定でおります。

TQCはNPB内部に於いても従来しっかりと担当する部所がなく、NPBの上部機関NPC（国家生産力委員会）事務局の担当になっていました。今回シンガポール政府が実施する中小企業育成の一連の対策に対応してNPBもTQCを充実させる為その担当をNPCの事務局から他の実践出来る部所へ移管する様子です。これによりPDP専門家の指導も更に効果が上がるよう期待出来る状況になって参りました。

シンガポール側も先般TQCスタディーミッションを日本に派遣しTQCの実践を体得して来ております。この派遣を機会に地元企業の中にもTQCへの関心が高まって来ております。TQCの正しい普及は準備段階を終了、いよいよ正念場を迎えようとしております。

3. 総 括

以上自分の担当する部門を中心にPDPの経過を報告させていただきました。このプロジェクトに参加して肌に感ずる事は、我が祖国日本は世界の中で非常に特殊な環境にある事実です。世界広しと言えども1億人以上の人口を持つ国で只一つの言葉だけしか持たない国は日本丈です。それ丈に日本式経営はコミュニケーションが良く出来ることを前提に成立っている感がいたします。

生産性向上の為「日本にまなべ」の相手国に対し環境の違いを考慮せず日本の経営方式をそのまま持込もうとしても、その移転は出来ません。ソフトの技術協力の難しさはこの違いの克服にあります。実際シンガポールでの経営に、日本式経営がどこまで適応出来るかJCCI会員皆様の実際のご経験を参考とさせていただきながらシンガポールに一番適した方法を模索しソフトの技術移転を実施してゆきたいと考えております。より大きな効果を得るため会員皆様との対話を深めたいと希望いたします。

よろしくご協力の程お願い申し上げます。

シンガポール菓子事情

明治製菓（シンガポール）

鈴木 昭一

1. はじめに

日本では飽食の時代に入り、甘味離れ、菓子離れに加え例の二十一面相事件もあり業界は売上げの伸び悩みに苦勞している。

一方開発、生産技術・品質管理等のレベルは戦後の自動車、カメラ・電気製品と同様の発展過程をたどり今日では欧米先進国へも技術供与・合弁事業進出が軌道に乗り、すでに世界最高水準に到達しているのは大変に喜ばしい事である。

さて、ここ、シンガポールの事情は如何であろうか。短かい経験乍ら感じた事を幾つか挙げてみたい。

2. マーケットについて

人口 250 万人のマーケットと云えば岡山県或は名古屋市位の規模であろうか。こちらへ来て先ず驚いたのは品種の多い事であり、スーパーでの菓子売場スペースが日本より広い事である。

地元シンガポール産の品々は勿論の事、日本・ヨーロッパ・アメリカ・濠州・マレーシア等、正に世界中の菓子が集っている感じであり、包装形態も罐・紙筒・紙サック・袋・プラスチックと多様な材料や形態のものが陳列されている。

品種もおなじみのチョコレート・ビスケット・スナック・キャンデーの他に昔ながらの伝統食品やドライフルーツ・水産加工品など多彩を極め正に百花繚乱である。

伝統食品と云えば日本の煎餅・あらはれは勿論大福・おはぎ・桜餅・うぐいす餅などの和菓子のある事には一寸驚き、更に各民族の伝統的菓子ではチャイニーズのニューイヤー用菓子や中秋節の月餅・マレーのラマダー（断食）明け・インディアンのデイパーバリーのもの、ヨーロッパ系の

クリスマスケーキ等バラエティに大変富んだ多民族市場が当地の特徴である。店頭でみた感じでは結構よく売れている。菓子売場での人の動きはどうも日本よりも多い様である。シンガポールのマーケット規模は小さいが消費動向をみるとやり様によっては面白い場も作れるだろうと云うのが私の着任した時の実感である。

3. 流通について

供給側は地元生産者と輸入商であり、両者を兼ねている者もいる。流通先は問屋・デパート・スーパー及び小売店で供給側と直接或は間接に取引しているのは日本と同様である。変わっているのはプロビジョンショップとよばれる小売店への「バラもの」の販売である。日本ではとくに姿を消したが、「バラもの」と云い5ガロン・罐に詰めた菓子を店では大きなガラス壺に移し代えて店頭に並べて置く。取引は現金に近くセールスマンにはコミッションがつく。

お客は殆んど子供で何セントかのコインを握ってお店にかけつけ壺の中のお菓子を何枚か買って楽しんでいる。年輩の方は幼ない頃銅貨を持って煎餅の何枚か飴玉の何個かを買った記憶をお持ちかとも思う。あのスタイルの店がシンガポールではまだ沢山ある。

このプロビジョンショップはマレーシアでもタイでも多く見られ末端流通にそれなりの役割りを果しているのであるが古い商店街の取りこわしでミニスーパー化する店舗も増えつつありローカル色豊かな買いもの風景もやがては見られなくなるかも知れない。これもやはり時代の流れであろうか。

4. 嗜好について

日本でも消費の多様化で画一性より個性化への流れは菓子にも現われ、味の決め方も嗜好調査の結果を統計的手法で解析するなど単純ではなくなっており、又時代により消費者の好みも変わってくるので一概には論じられないが一般的には日本より甘味の強いものが好まれ酸味の強いものは余り好まれない様である。

品種別に若干述べると

チョコレート

純粋なカカオバターを使ったものは摂氏28度で融ける。従って口に入れると体温でさっと融けて滑らかな舌触りが何とも云えない。シンガポールは気温の関係上植物油脂に水素添加して融点を上げたものを使っているが多い。私どもは耐熱チョコと云っているが口に入れても融け方が悪くてモサモサしていてどうも今一つなじめない。その代わり余り気温を気にしなくても商売出来る利点がある。

又チョコレートにナッツ等を混ぜたものが多く、いわゆる板チョコは少ない。チョコレートを使ったスナック類は日本品が多く、気温に関係なくいつもペースト状のチョコレートを使った「ヤンヤン」などは日本より技術移転をして当地で生産し大変好評である。

ビスケット・クラッカー

甘味の多いソフトビス系が強くて結構動いている様子である。

クラッカーは「クリームクラッカー」がよく売れている。このクラッカーはイギリスで古くより作られていて変わった製法を採っており先に述べた「バラもの」でも多く見かける。日本ではまづ見かけない。やはり旧宗主国時代に入って来て定着したものであろう。香ばしくておいしいが日本のクラッカーよりは歯ごたえがある。

スナック

原料ではコーン系・小麦粉系が主体で小型の設備でも生産出来、ペレットと云ってフライまたはローストして味付けだけすればよい半製品も出廻っている事からローカル製品にも結構見うけられる。

歯障りは日本のものより硬いものが好まれている。

キャンデー

こちらの人はキャンデーと云うより「スウィート」とよぶ事が多い。いわゆるドロップの様な酸味のあるものは余り好まれない。ハーブ（薬草）入りのものが結構売れているのが特徴である。

5. 日本との輸出入

日本製の菓子は味・独創性・パッケージ・デザイン何れをとっても評判がよく値段もローカルのものに比べ割高だが結構動いており例のプロビシ

ョンショップでも多く見られる。これは業界の（日本からの）輸出努力とこちらでの販売努力が効を奏し、菓子も今では立派な輸出商品として定着している事である。

大蔵省関税局調べによる 1984 年（昭和 59 年）の日本よりシンガポールへの菓子輸出実績は次の通りである。

種 類	金 額
チョコレート菓子	141,871 千円
チュインガム	403,710
キャンデー	219,963
砂糖菓子	155,333
ビスチット（加糖）	162,295
ビスケット（無糖）	971
米 菓	74,244
ベーカリー製品	499,962
合 計	1658,347

輸入品の中の相当部分は周辺諸国や中近東方面へ再輸出があり、香港経由で日本品の輸入もある様なので当地での実消化については調べて見たがどうもうまく掴めないのが実情である。

シンガポールより日本への輸出はタブレット菓子が殆んで年間 3～4 千万円と見られている。輸入品については 5 % の関税、輸出品には砂糖の輸出減税措置がある。

又日本へはチョコレートの中間原料の輸出がある。

6. 表 示

名称・内容量・原料名・生産者名及所在地等の表示が英文で義務づけられている。

最近黄色の菓子で食用色素タートラヂンを使用しているものはその旨の表示が追加となった。

輸入品については生産者名及所在地の代わりに輸入者名及所在地の表示が必要な事は云うまでもなく個装（最少包装単位）への表示義務がある為必

要事項を印刷したステッカーを貼っている品が多い。

輸入品で頭を痛めるのは名称である。こちらの人にもわかり易くとの当局の指導で「もちこし村」の「CORN COUNTRY」などは直訳スタイルで意味も通じるだろうが「のりものランド」は考えれば考えるほど頭を悩まし二転三転のあげくビスケットの表面にのりものを食用色素で印刷してあることから「PRINT BISCUIT」と極めて単純に割り切った経緯もある。

7. 原料事情

今日本では貿易摩擦問題がクローズアップされチョコレートの輸入関税20%を下げる様に欧米より圧力が強くなりつつあるがこれは日本の農産物価格が外国より高い為にとられている措置である。日本の業界は関税を下げるなら原料価格を国際価格並みにせよと主張して業界の大同団結の新しい体制が85年11月28日に発足した。

一例をあげればシンガポールに比して日本は

砂糖価格は2.2倍

全脂粉乳は2.5倍

小麦粉は2.0倍である。

この問題が解決しない限りシンガポールは原料立地的に日本より好条件と云えるが、今の所日本向輸出は僅かである。

8. おわりに

シンガポールの市場は小さく当地だけを対象にしていたのでは会社の運営は厳しく、広く東南アジア・中近東諸国にも嗜好に合った美味しい菓子を作り出して行きたいと考えている。

その為には日本の長所をより多く採り入れ皆さまよりご指導、ご助言を賜わりつつ多民族の消費者に喜んで貰える様これからも精進して参る所存です。

会 員 紹 介

- SMK ELECTRONICS (H. K.) LTD

Singapore Branch

(SMK エレクトロニクス ホンコン シンガポール支店)

所 在 地 : 3 Lorong Bakar Batu, #08-03, Brightway Building, Singapore 1334

電 話 : 7450951

設 立 : 1979年5月(登記), 1979年6月(操業)

形 態 : 子会社

代 表 : 兼氏 忍 (支店長)

Mr. S. Kaneuji (General Manager)

従業員数 : 8名、日本からの派遣社員1名

事業内容 : SMK製(日本、台湾)電子機構部品の輸入、販売

主な取扱品目 : スイッチ、コネクタ、キーボード、
リモコン、ジャック等。

(会社の特色)

SMK 企業理念、SMK は可能性の追求を通して、総合的な高度技術
により情報社会の発展に寄与する。

- ORIM MANUFACTURING PTE LTD

(オリム・マニファクチャリング PTE LTD)

所 在 地 : 51 Ayer Rajah Crescent #01-01, Singapore 0513

電話番号 : 7786877/8

設 立 : 1982年10月(登記), 1983年1月(操業)

形 態 : 子会社

代 表 : 米山 政史

Mr. M. Yoneyama (Managing Director)

従 業 員： 9 名、日本からの派遣社員 1 名

事業内容：精密小型モーター製造・販売（AC, FHP モーター）

販売先：日本、アメリカ、台湾、シンガポール

仕入先：日本（一部シンガポール国内調達）

（会社の特色）

日本の会社の考え方、やり方をシンガポールで確立する

（1ヶ造生産、Uライン方式）商品は、電算機、事務機、OA 機器、
医療機器、工作機・農機具等非常に幅広い用途に使われている。

将来、シンガポールで素材からの一貫生産を行いたい。

理事会の動き

第 197 回 1985 年 12 月 10 日 (火)

午後 12 時 30 分

議 事 :

1. 前回議事録承認

異議なく承認された。

2. 審 議 事 項

(1) 海外派遣労働者等に対する労働安全衛生対策事業への協力について

中央労働災害防止協会から標記対策事業の推進のため本所に対して以下の協力要請があった。

a 本所との共催により在星日本人スタッフを対象にした労働安全衛生セミナーを来年 1 月 15 日午後 2 時—同 5 時の予定で開催する。

b 中央労働災害防止協会より労働安全衛生に関する書籍及び視聴覚機材が本所に供与されるのにもない本所内に労働安全衛生情報コーナーを設置し、会員に対する書籍等の貸し出しを行う。

また、本件に関して日本大使館の若木書記官から財政面での負担を会議所にかけることはないとの意見が本所事務局に伝えられている。

審議の結果、本所として此の度の協力要請に応じることとなった。

(2) 本所顧問推薦候補者の選考について

共同推薦者である赤松、小出、岡崎各理事を代表して赤松理事から FUJITEC SINGAPORE CORPORATION LTD 取締役社長の風間一潤氏を本所顧問に推薦したいとの提案があった。

風間氏は年齢 56 歳、本社の常務取締役で、在星期間も既に 9 年を数えるなど、本所顧問内規の資格要件を満たしていることから、審議の結果、同提案は異議なく承認された。

(3) 事務局長の任期について

、榊原会頭より、来年 3 月で満 3 年になる西田事務局長の任期延長を

派遣元の大阪商工会議所に要請していたところ、此の度、1年間の任期延長につき基本的に了解を得たとの報告があり、異議なく了承された。

(4) 本所事務局員の賞与支給について

木村総務担当理事より、本所事務局員に例年通りの支給月数にて12月20日に賞与を支給したいとの提案があり、異議なく承認された。

(5) 子女教育費補助制度の改定について

木村総務担当理事より、事務局長の労働条件の中の子女教育費補助制度を来年1月1日から以下の通り改定したいとの提案があった。

(現 行)

教育費の月額が子女一人につき本人給の5%を超える額を補助する。但し、本人給の15%を補助限度額とする。なお、教育費には授業料、バス代及び入学金(月割)を含む。

(改 定 案)

小・中学生については日本人学校の入学金、授業料及びバス代の範囲内で実費を支給する。

高校生については、教育費の月額が子女一人につき本人給の5%を超える額を補助するものとし、本人給の15%を補助限度額とする。

なお、教育費には授業料、バス代及び入学金(月割)を含む。

審議の結果、同改定案は異議なく承認された。

3. 報 告 事 項

(1) 1985年度労使関係セミナー報告

事務局より11月19日開催の標記セミナーの収支決算について以下の通り報告があった。

参加費収入 \$ 7,175.00

支出合計 \$14,273.05

収支差額 \$7,098.05 のうち講師・関係者打合せ兼夕食会(18日)と講師を囲む昼食懇談会(20日)の経費は本所負担とし、残り\$4,123.55を日本在外企業協会負担とする。

(2) 景気対策並びに国際競争力強化策に関する要望

本所では、さる 10 月に実施した製造業業況調査結果にもとずいてシンガポール政府当局への要望事項をとりまとめ、12月2日付で配布資料の通りの意見書を榊原会頭名にてリーシェンロン通産担当国務大臣兼経済委員会議長と P. Y. HWANG EDB 長官に提出した。

(3) 部会・委員会等開催報告

a 部 会

- 11月22日(金) 第三工業部会小集団活動体験談発表会
- 12月 4日(水) 運輸・通信部会 PASIR GUDANG 港湾視察
- 5日(木) 運輸・通信部会

b 委員会

- 11月21日(木) 経営研究委員会
- 21日(木) 第14回 JCCI-NPB PERMANENT DIALOGUE COMMITTEE
- 12月 6日(金) 広報委員会
- 10日(火) 運営担当理事会

c 懇談会等

- 11月15日(金) 東南アジア経済交流及び名港利用促進視察団一行
- 18日(月) 労使関係セミナー日本人講師御一行との打合せ兼夕食会
- 19日(火) 1985年シンガポール/日本労使関係セミナー
- 20日(水) 労使関係セミナー日本人講師を囲む昼食会
- 22日(金) 水戸商工会議所海外研修視察団との懇談
- 29日(金) 経済同友会海外調査員との懇談
- 12月 9日(月) 日本商工会議所経済協力東南アジア視察団との懇談

4. 入 ・ 退 会

事務局より下記の入・退会を報告し、異議なく承認された。

(1)入 会 (1 社)

◎ THE ZENNSHINREN BANK, LTD. "A"
SINGAPORE REPRESENTATIVE OFFICE

(2)退 会 (1 社)

◎ TOKYO TESTING MACHINE MFG. CO., LTD.

5. 会 計 報 告

1985 年度 1 1 月分の会計報告として、吉永財務委員作成の会計報告書を理事会出席者全員に配布した。

広 報 欄

- ** NEW MEMBERSHIP (14th January 1986)
- * NIPPON LIFE INSURANCE COMPANY
Mr. A. Matauoka (Chief Representative)
6, Battery Road #16-07
Standard Chartered Bank Building
Singapore 0104
Tel: 2242727
- * TOPPAN MOORE SYSTEMS (S) PTE LTD
Mr. H. Uchida (Manager)
10, Collyer Quay #08-03A
Ocean Building
Singapore 0104
Tel: 5327200
- ** CHANGE OF ADDRESS
- * ROHM ELECTRONICS CO (SINGAPORE) PTE LTD
140, Paya Lebar Road #06-01/03
A-Z Building
Singapore 1440
- ** CHANGE OF NAME OF REPRESENTATIVE
- * NISSHIN STEEL CO LTD
From Mr. A. Takewaka to Mr. W. Nomura
- * NOMURA TRADING CO LTD
From Mr. Y. Ueda to Mr. T. Yoshii
- * DYR ADVERTISING PTE LTD
From Mr. T. Inamori to Mr. Y. Kawashima
- * K.D.S. (SINGAPORE) PTE LTD
From Mr. S. Tamiya to Mr. A. Mori

資料案内

国内一般

シンガポール共和国概要 (1981 年)	S\$ 10
シンガポール共和国移住法	S\$ 15
民事法	S\$ 5
刑法 (暫定規定法)	S\$ 10
公益事業法	S\$ 10
JAPANESE AFFILIATED FIRMS IN SINGAPORE	(非会員) S\$ 30
	(会 員) S\$ 15
貿易開発委員会法	(会 員) S\$ 5
	(非会員) S\$ 8

投資関係

資金援助制度の手引き	S\$ 8
法律 15 号 (経済拡大奨励法改正法) 1979 年	S\$ 5

租税・税制

法律第 2 号共和国所得税法改正 (1973 年)	S\$ 5
法律第 13 号 " (1977 年)	S\$ 5
法律第 17 号 " (1980 年)	S\$ 5
法律第 20 号共和国所得税 (改正) 令	S\$ 5
シンガポールとの租税 (所得) 条約	S\$ 5
法律 (改正) 時報第 21 号 (経済拡大奨励法及び所得税法改正法)	S\$ 5
シンガポールの租税	S\$ 15
シンガポールとの租税 (所得) 条約 (二重課税防止条約の一部改正)	S\$ 5

会社法

法律第 1 号 (共和国会社法改正) 1970 年	S\$ 5
法律第 4 号 (共和国会社法改正) 1974 年	S\$ 5
法律第 19 号 1980 年中央厚生年金法告示 (付表の入替)	S\$ 5
法律 16 号 (会社の買収及び合併に関する)	S\$ 5
シンガポール共和国会社法	(会 員) S\$ 60
	(非会員) S\$ 70
中央厚生年金法 (1983 年版)	(会 員) S\$ 10
	(非会員) S\$ 15
シンガポール共和国憲法 (再版)	(会 員) S\$ 10
	(非会員) S\$ 15
国会議員選挙法 (再版)	(会 員) S\$ 10
	(非会員) S\$ 15
シンガポール共和国会社法・1984 年改正法	(会 員) S\$ 20
	(非会員) S\$ 30

為替管理・関税

関税法（1979年関税令）	S\$ 15
法律第6号（為替管理法改正）1976年	S\$ 5
金融業者法	S\$ 10
財務諸表公開原則	S\$ 15

業種別規則

法律第18号工場法改正法（1973年）	S\$ 5
大気汚染防止法（1971年）	S\$ 10

特許・商標・その他

シンガポール共和国特許（実施権）法	S\$ 5
シンガポール共和国商標法	S\$ 10
価格規則法	S\$ 5
1975年水質汚染規則制及排水法	S\$ 10
1971年海洋汚染防止法	S\$ 5
印刷・出版業者法	（会 員）… S\$ 2
	（非会員）… S\$ 3
ホテル法	（会 員）… S\$ 5
	（非会員）… S\$ 8

労働関係

労働組合法（1977年）	S\$ 10
法律第3号（共和国労働雇用法改正）1970年	S\$ 5
法律（改正）時報（第25号）	S\$ 5
法律（改正）時報（第26号）	S\$ 5
法律（改正）時報第22号（雇用法並びに労働者補償法）	S\$ 5
法律（改正）時報第23号（中央厚生年金法改正法）	S\$ 5
労働雇用法（1976年幼少年雇用規則）	S\$ 5
法律（改正）時報第24号（中央厚生年金改正法）	S\$ 5
法律（改正）時報第27号（中央厚生年金法を改正する法律）	S\$ 5
シンガポール共和国雇用法（改訂版）	（会 員）… S\$ 15
	（非会員）… S\$ 20
労働三法（雇用法・組合法・関係法）	S\$ 30

商工会議所出版物

業種別会員名簿（1984/85年）	（会 員）… S\$ 15
	（非会員）… S\$ 30
月報（各月号）	S\$ 8
最近の労働条件及び福利厚生の実態調査報告書	（会 員）… S\$ 10
	（非会員）… S\$ 30
タイ国投資環境視察団報告書	（会 員）… S\$ 5
	（非会員）… S\$ 10
シンガポールにおける企業経営ガイド	（会 員）… S\$ 15
	（非会員）… S\$ 30

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

昨年中、当「月報」に寄せられました会員各位の御協力、御支援に対して広報委員一同より厚く御礼申し上げます。本年も会員のみなさまに少しでも何かの御役に立つような誌面作りをと委員一同考えております。そこで、会員のみなさまの中で当誌に対する御意見、編集企画案及びテーマ等御持ち合わせでしたら、ぜひ御指導を頂ければと思います。

さて、新年を迎えられてみなさまも公私共に色々と本年の計を御持ちの事と思います。特に事業面では昨年来の景気後退が本年はどのような足どりとなり、その結果どのような事態を予測したらよいのか、最も御関心の深い事と思います。そこで、本新年号は恒例ですが、当商工会議所の理事各位に新年に当たっての随想を御寄稿頂きました。

また、PDPのアドバイザーとしてNPBで御活躍の佐藤和親氏には昨年の生産性向上月間中の御忙しい最中に、QCC・TQCの集団活動推進に際して、みなさまの御参考にして頂ければと御寄稿を御願い致しました。

更に、明治製菓の鈴木昭一氏にはシンガポールの菓子事情と云う非常に興味深い記事を御忙しい御出張の合い間を抜って仕上げて頂く様な無理を御願いしてしまいました。

御寄稿頂きました御両氏にはこの誌面を借りて厚く御礼申し上げます。

今月号の担当は、池沢（凸版印刷）と清水（伊勢丹）でした。

MONTHLY REVIEW

STRICTLY MEMBERS ONLY



M. C. (P) No. 12/4/85

PRINTED BY
GREEN MOUNT PUBLICATION & PRINTING CO.
155 Kallang Way # 02-11/12
Singapore 1334. Tel: 2923831

JAPANESE CHAMBER OF COMMERCE & INDUSTRY SINGAPORE

C. P. F. BUILDING, 79 ROBINSON ROAD, # 24 - 04 (24th Storey) SINGAPORE 0106